ここにタイトルを入れてください

**Please input English title**（英語のサブタイトルは無くても可）

長崎太郎\*　　　　　長崎花子\*\*

Taro NAGASAKI　　　　Hanako NAGASAKI

\*太平洋高校　　　　　\*\*日本海大学

Taiheiyo High School　　Nihonkai University

あらまし：本ファイルは、情報コミュニケーション学会第32回研究会/第9回社会コミュニケーション部会発表論文集の原稿作成用テンプレートです。一般研究発表者は、見開きで4ページまたは2ページ分の原稿を作成ください。原稿は、Microsoft Word形式の電子ファイルとともにPDF形式ファイルの提出をお願いしています。（あらましは300字以内、英文サマリーは不要です）

キーワード：テンプレート　発表論文集（キーワードは５～６語、英文キーワードは不要です）

# 1　はじめに

*「はじめに／序論」では、研究の背景、研究を始めた動機を説明します。そして、論文内容の要約と得られた成果を簡潔に説明します。*

この鋳型は、学会誌執筆要項[1]の投稿種別「ノート(Note)」に準じたものです。

## 1.1　論文タイトルまわり

原稿の冒頭には、タイトル、著者名、所属を日英両語で入れます。

* タイトルは、論文等の内容が明確に分かるようにし、副題はない方が望ましいです。
* タイトルのポイント数は、14pですが、文字数によっては12～18pまでお使いになれます。
* タイトルの英語標題は、文頭の一文字だけ大文字とし、それ以降は固有名詞を除いて小文字です。
* 著者名の英語表記は名姓の順とし、姓は大文字のみで記します。例：Makoto SUZUKI

タイトルと著者名・所属は、「中央揃え」と「グリッド線の解除」をしてあります。「グリッド線の解除」をしないと、不自然な行間になるからです。その方法は、該当部分を選択したうえ、メニューから「書式」→「段落」と選んで、「インデントと行間隔」の2番目のチェックボックスを解除指定します。

# 2　本文の構成

*本文内容では、研究の方法（実験方法、分析方法等）、得られた結果、知見、先行研究との比較、考察などについて、図表を用いて説明します。*

本文は2段組で23字×44行を原則とし、A4用紙で4または2ページ。余白は上下25mm左右20mmです。文字のポイント数は10.5pですが、10pでもかまいません。句読点は、読点「、」と句点「。」を用います。

## 2.1　章節の見出し

本文は必要に応じて章、節、項に分け、章は「1　○○○」、節は「1.1　×××」、項は「(1)　△△△」のように記し、章、節、項の見出しに続く文章は改行して、1文字下げてはじめます。

# 2.2　図表

図表については、図1、表1、写真1のように一連番号を付し、タイトルを必ず付けます。

表や図について、フォントサイズや行間、レイアウトデザインはここに挙げた例を参考にしてください。

表 1　ここに表のタイトルを入れます

|  |  |
| --- | --- |
| 表のタイトルは、表の上に置いて下さい | ・・・ |
| ・・・ | ・・・ |

図表作成上の注意を次にまとめておきます。

* 図、写真、表はオリジナルを使用してください。
* 余白部分に張り出さないようにご留意ください。
* あまり小さい文字の使用は控えてください。
* 図、写真、表はきれいに作成してください。
* モノクロで掲載を予定する場合、カラーは使用しないでください（カラー印刷は、申し出により著者が制作実費を負担する場合に限って認めます）。

図のタイトルは下

部下１

部下２

部下３

図 1　図のタイトルを入れてください

# 2.3　注について

注は原則として用いないで下さい。発表原稿はページ数が少ないので、注を後ろにまとめるよりも、本文中に括弧付きで書き込みましょう。

## 2.4　参考文献について

参考文献は、論文中の表出順に通し番号を付して末尾に一括記載します。文献リストに必要な項目と順番は、書籍の場合は[1]、雑誌の場合は[2]の通りとします。著者が複数の場合には、全著者の氏名を記入します。和文文献においては、読点には全角の「、」を用い、「Vol.」、「No.」、「pp.」あるいは月名等の省略記号及び行末の句点には半角ピリオド「.」を用います[1-2]。

欧文文献の留意点：

* 姓と名のイニシャルをWine, A.G.のように記し、半角空白を姓名の間一箇所だけに挿入します。
* 半角ピリオド「.」と半角カンマ「,」を用います。
* Vol.J62-B、No.1、pp.20-27 等の場合には、半角ピリオド「.」の後ろにはスペースは挿入しません。
* 発行の年月を記載する場合には、月年の順で、月名には英語を、年には西暦を用います。

## 2.5　引用方法について

本文中の該当箇所に引用番号を[1]や[2-5]とします。書籍などで引用場所を明記する場合は、[1, p.35]、[2, pp.14-18]、[3, 第5章]のように記します。

# 3　まとめ

*「まとめ／結論｣では、得られた結論や成果を簡潔に記します。できれば箇条書きにしてください。さらに、残された課題があれば簡潔に書きます。*

## 3.1　原稿の提出方法

原稿の提出は次の電子メールアドレスへ、Microsoft Word形式ファイルとPDF形式ファイルの二つを送付して下さい。

* 原稿の送付先：（□を@に変えてください）
	1. 第32回研究会（寺尾敦）：atsushi□si.aoyama.ac.jp
	2. 第9回社会コミュニケーション部会（後藤晶）：akiragoto□meiji.ac.jp
* 提出締切：2022年7月21日(水)　23:59

## 3.2　発表の申し込み（2022年7月14日(水)　23:59）

原稿を提出する際、電子メールの本文には、次の発表申し込みをテキストでご記入ください。

1. 発表予定者氏名（所属・職格・学年も）
例：長崎太郎（太平洋高校・教諭）
　　長崎花子（日本海大学・教授）
　　長崎次郎（九州中学校・２年生）
2. 発表題目
3. 発表内容の概要（あらまし）
4. 発表形式についての希望（「パワーポイント使用」等）
5. 補足（学習成果や実践活動の報告の場合、クラスやゼミ及び地域・団体等の活動状況の概要を簡潔にご紹介ください。）

## 3.3　知的財産権の尊重と研究上の倫理

原稿執筆に際しては、他者の著作権や、研究に関わる個人・集団（研究対象となった個人・集団や研究に関連のある個人・集団）のプライバシーや名誉、人権に関する十分な配慮のもとに行ってください。さらに、研究上の倫理にも反しないよう、十分に配慮されることが求められます。

## 3.4　共著者への制約・謝辞

研究会での発表の場合、共著者に本学会員が含まれている必要はありません。

謝辞があれば本論の最後にお書きください。

# 参考文献

1. 情報コミュニケーション学会、「学会誌執筆要項」、http://www.cis.gr.jp/shippitu.html (2020年10月26日アクセス）.
2. 著者名、『書名』、編者名、発行所、発行都市名、発行年.
3. 著者名、“標題、” 雑誌名、巻、号、pp.を付けて始め－終りのページ、年月.

（この最後の2行は2段組指定をしていない行です。不要の場合は削除してください。）